

# Society5.0に向けた 知的財産戦略

～プロパテント戦略からプロイノベーション戦略へ～

2018年1月25日

内閣府知的財産戦略推進事務局

# 1. データ・人工知能利活用のための知財システム(知財推進計画2017)

- ビッグデータ利活用による新サービス創出、産業競争力強化が期待される一方で、データ流通基盤の未確立や、不正利用への懸念・不安などが存在(現行制度上は、営業秘密としての保護のみ)。民間の取組の支援に加え、一定の条件で広く「価値あるデータ」の利活用が進むことを支援するような法的な枠組みが必要。
- 幅広い産業応用が期待されるAI(特に深層学習)の利活用の過程の要素(「学習用データ」、「学習済みモデル」、「AI生成物」等)について、保護と利用のバランスのとれた考え方の整理と仕組みが必要。

内閣府「人工知能と人間社会に関する懇談会」(2016年5月～2017年1月)には知財事務局も参加し、意見交換

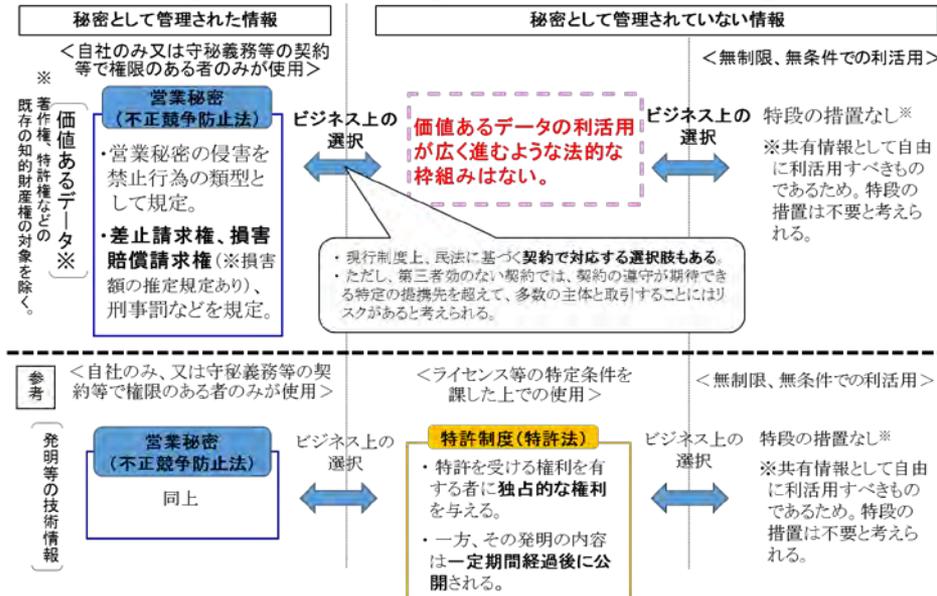
## 【データの利活用促進のための知財制度等の構築】

- ・データの利用権限に関する**契約ガイドライン**等の策定や、**データ取引市場**等の社会実装に向けた支援策・制度整備を検討
- ・データの不正取得禁止や暗号化など**技術的な制限手段の保護強化**等について、**次期通常国会への不正競争防止法改正案**の提出を視野に検討
- ・データ利活用促進のための制限のある権利について、データ取引市場の状況等を注視しつつ、引き続き検討

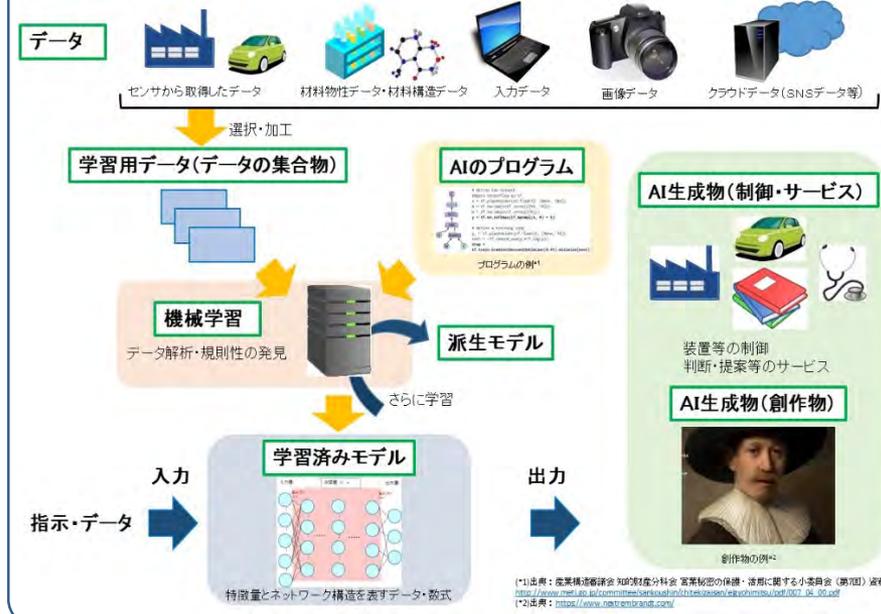
## 【AIの作成・利活用促進のための知財制度の構築】

- ・AIの学習用データの提供・提示について、**著作権法の権利制限規定**に関する制度設計や運用の中で検討
- ・**学習済みモデルの契約による適切な保護の在り方や特許化する際の具体的な要件**等について検討
- ・AI生成物の知財制度上の在り方について、具体的な事例を継続的に把握しつつ、引き続き検討

### 【「価値あるデータ」と現行知財制度の状況】



### 【人工知能を用いたデータ利活用】



①出典：産業構造審議会知的財産分科会「営業秘密の保護・活用に係る小委員会（第7回）資料4特許」  
[https://www.met.go.jp/committees/sanshou/sanshou/7/hiseisaku/sakurushu/pdf/007\\_06\\_00.pdf](https://www.met.go.jp/committees/sanshou/sanshou/7/hiseisaku/sakurushu/pdf/007_06_00.pdf)  
 ②出典：https://www.netembrand.com/

# 「知的財産推進計画2017」を踏まえた関係省庁の検討状況

## 経済産業省

- ビッグデータを活用した新規ビジネスの進展を促進するため、不正競争防止法におけるデータの不正な取得・使用・提供に対する救済措置の創設のための法案を通常国会に提出する予定
- 「データの利用権限に関する契約ガイドラインver.1.0」を公表

## 文部科学省

- 文化審議会著作権分科会報告書を受け、著作権法におけるデジタル・ネットワーク化の進展に対応した柔軟性のある権利制限規定の整備等のための法案を通常国会に提出する予定。

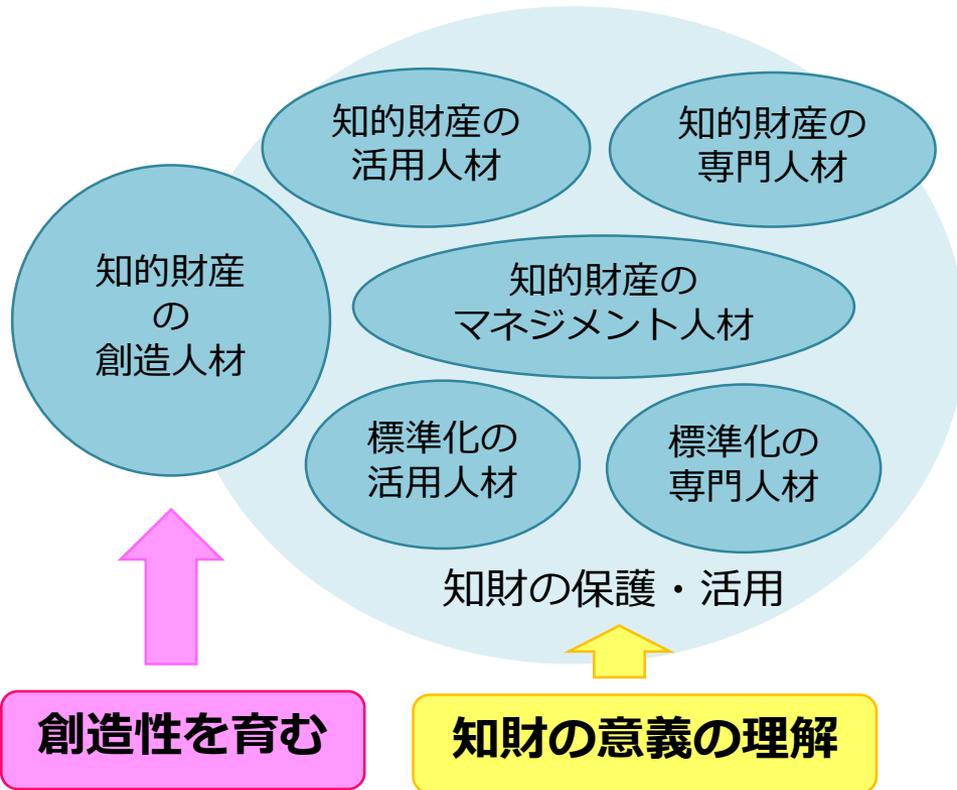
「知的財産推進計画2018」において、引き続きフォローアップ予定

## 2. 知財創造教育の推進 (知財推進計画2017)

- 天然資源の乏しい我が国では、**知的財産による新しい価値創造が産業競争力に直結**
- 子どものころから「**違いを生み出す能力**」や「**価値を生み出すデザイン力**」が重要であることを教える**知財創造教育**が必要

### “国民一人ひとりが知財人材”へ

知的財産の創造から保護・活用に至る知的創造サイクルの好循環を生み出す人材を育む



### 知財創造教育推進コンソーシアム

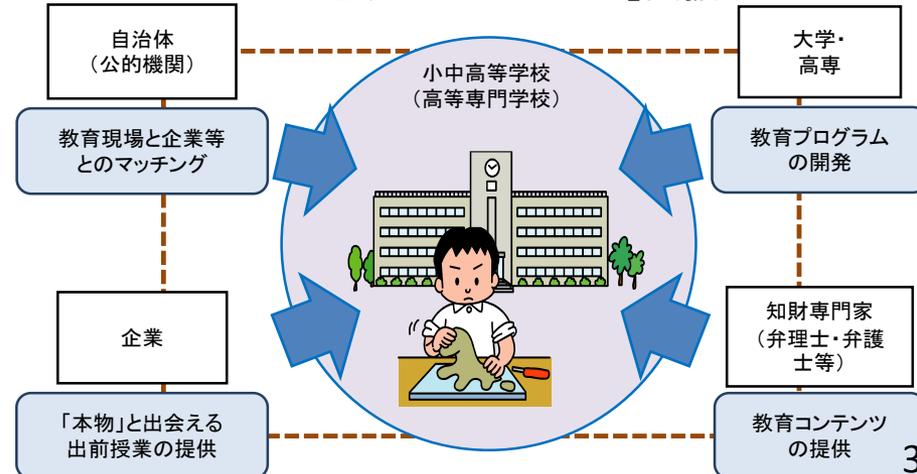
(2017年1月設立)

共同会長：**松山 知的財産戦略担当大臣**  
**出口 日本教育大学協会 会長**  
**金子 経団連知的財産委員会 委員長**

- 教育関連団体(教育委員会連合会、校長会等)
- 民間団体(経団連、知財協、弁理士会等)
- 関連府省
- マスコミ

知財創造教育の基本方針決定  
 カリキュラム策定  
 コンテンツ作成・収集

### 「地域コンソーシアム」支援



### 3. 知財のビジネス価値評価の検討（「知財推進計画2018」に向けて）

#### <課題>

- ◆ 企業が、自らの置かれた事業環境において自己の有する資源・不足している資源を把握し、諸資源を組み合わせて価値を創造するメカニズムをデザインすることが困難
- ◆ 知財との関係で価値創造メカニズムをデザインする際に考慮すべき要素や指標等も明確でない結果、知財戦略と事業戦略を適切に連携させることが困難

#### <アウトプットイメージ>

- ◆ デザイン思考に基づいて価値創造メカニズムを構築し、プロイノベーション戦略の推進に寄与するモジュール型ワークシート
- ◆ 事業戦略の策定に用いることができる、価値創造メカニズムにおける知財の効果分を把握する知財価値定量化モデル

#### <検討の前提>

- ◆ 事業を行う者の立場で当該事業と紐づけられた知財を一体として認識・評価
- ◆ 価値創造メカニズムが記載されたシートの開示先・開示内容は各社の判断

# 知財のビジネス価値評価検討タスクフォース※ 構成員

※知的財産戦略本部検証・評価・企画委員会の産業財産権分野を取り扱う会合の下にタスクフォースとして設置

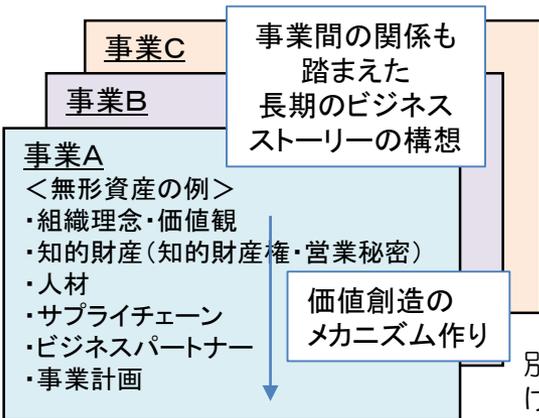
計12名、敬称略

座長

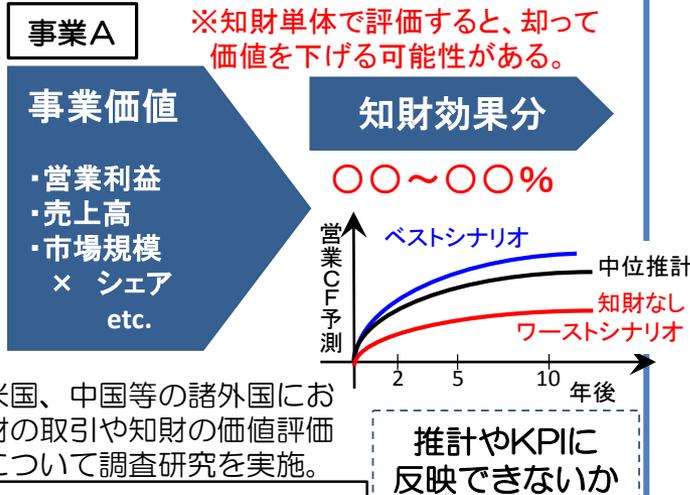
氏名	所属
渡部 俊也	東京大学 政策ビジョン研究センター 教授
相澤 英孝	一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授
奥田 武夫	オムロン(株) 知的財産センタ 経営基幹職
小林 誠	デロイトトーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社 シニアヴァイスプレジデント
強瀬 理一	東京都民銀行 常務執行役員
鮫島 正洋	内田・鮫島法律事務所 弁護士・弁理士
芝坂 佳子	KPMG Japan 統合報告 センター・オブ・エクセレンス (CoE)
鈴木 行生	(株)日本ベル投資研究所 代表取締役 主席アナリスト
関 大地	新日本有限責任監査法人 公認会計士 シニアマネージャー
萩野 源次郎	大和合金(株) 代表取締役社長 日本商工会議所・東京商工会議所 知的財産戦略委員会 委員
土生 哲也	土生特許事務所 弁理士
森 俊彦	特定非営利活動法人日本動産鑑定 会長

# 知財のビジネス価値評価の検討イメージ

## 1. 知財を含む無形資産の見える化



## 2. 知財のビジネス価値の定量化



別途、米国、中国等の諸外国における知財の取引や知財の価値評価の現状について調査研究を実施。

## 3. 評価結果の活用

- ・経営計画、開発計画に反映 (資源配分適正化)
- ・IR情報等で公開 (対外予見可能性)

知財の見える化/ 価値評価

適切な公表

知財の相場観

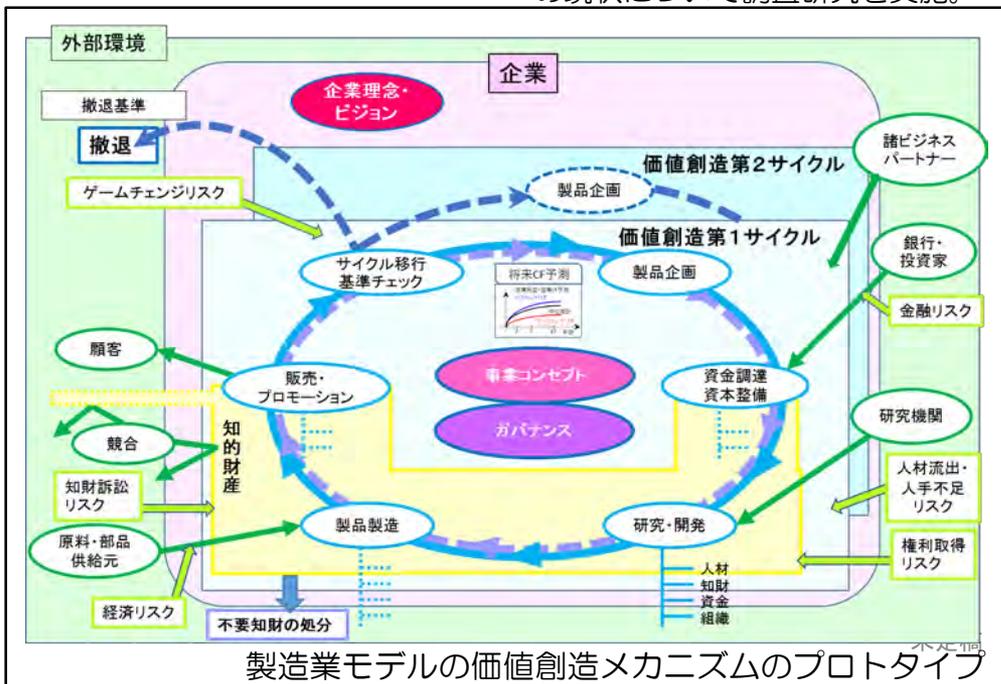
社内資源配分が最適化

M&Aの際の評価が精緻化

知財の損害賠償額が適正化

新規事業挑戦意欲  
産業再生

社会イノベーションの  
加速化



# 4. 「知的財産戦略ビジョン」の検討

2003年 知的財産基本法に基づく知的財産戦略本部 設置

→ 毎年の「知的財産推進計画」に基づく政府一体の知財戦略の推進

## 「知的創造サイクル」の基盤確立

- 特許審査体制の強化(世界最速審査達成等)
- 紛争処理機能の強化(知財高裁設立等)
- 営業秘密の保護強化
- 中小・ベンチャー企業への知財活用支援強化
- 国際標準化戦略の強化
- 産学連携機能の強化
- 模倣品・海賊版対策の強化

2013年 「知的財産政策ビジョン」策定

2012年 クールジャパン担当大臣設置

近年進む大きな社会変革

イノベーションの変質(供給主導から需要主導へ)  
データ、人工知能、IoT等の技術的進展  
人々の価値観の変化(モノよりコト、共感、シェア)  
少子高齢化、環境エネルギー等の社会課題

Society5.0実現

知的財産のあり方も「保護」から  
「共有」による利活用拡大へ

1年ごとの推進計画の見直しのみ  
ではなく、中長期のビジョンを政府  
全体で共有し、将来社会に必要な  
システム設計を行う必要

2025～2030年頃を見据えた新たな知財戦略ビジョンの検討(2018年5～6月頃取りまとめ予定)

- 【検討内容(例)】
- 中長期の社会・産業像
  - イノベーションの促進に向けた知的財産関連システムの刷新
  - 知財創造教育・知財人材育成
  - クールジャパン資源の再発見・再生産メカニズム

## 知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会 構成員

氏名	所属
安宅 和人	ヤフー株式会社CSO
池田 祥護	学校法人新潟総合学院理事長／日本青年会議所2018年度会頭
梅澤 高明	ATカーニー 日本法人会長
落合 陽一	筑波大学学長補佐・助教
富山 和彦	株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO
川上 量生	カドカワ(株)代表取締役社長
妹尾 堅一郎	産学連携推進機構 理事長
中村 伊知哉	慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授
日覺 昭廣	東レ(株) 代表取締役社長 日本経済団体連合会知的財産委員長
林 千晶	株式会社ロフトワーク 共同創業者、代表取締役
原山 優子	総合科学技術・イノベーション会議議員
渡部 俊也	東京大学政策ビジョン研究センター 教授

# 「知財戦略ビジョン」と「知的財産推進計画」

## 知的財産戦略本部

知財戦略ビジョンに関する  
専門調査会

中長期の知財戦略  
ビジョンの検討

### 知的財産戦略ビジョン

2025－2030年頃を見据え、  
社会と知的財産システムについて、  
中長期の展望及び施策の方向性  
を示すもの

社会への提案

検証・評価・企画委員会

ビジョンの実現に向けた  
知財推進計画の  
検証・評価・検討(毎年)

### 知的財産推進計画

知財ビジョンの実現のため、  
当該年度以降に行うべき  
短中期の政府の施策と工程表

関係府省による施策実行

# 専門調査会におけるビジョンの検討の進め方

現在

2020

2025

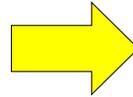
ターゲット未来

2030

## 1. 今起きていること・未来の兆し

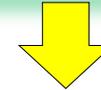
将来の社会変化につながりそうな「今」の環境変化や兆候

- ・IoT、ビッグデータ、人工知能などの技術進展
- ・情報発信やモノ・コンテンツづくりの主体の広がり
- ・シェアリングエコノミーの普及
- ・「コト消費」や「共感」(いいね!)の重視
- ・少子高齢化・人生100才時代 ……など



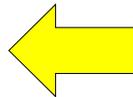
## 2. 将来の社会像の予想

- 2025～2030年頃、個人・社会はどのようになっているか
- 将来の社会で、新しいビジネスにつながる機会や我が国が強みを発揮できる分野は何か？



## 4. 将来の知財システムを作るために何をする？

- そのグランドデザインを実現するために、今から何をどう変えるか
- その中で、誰がどのような役割を担うのか  
政府、大企業、中小・ベンチャー企業、大学等、NPO、個人…



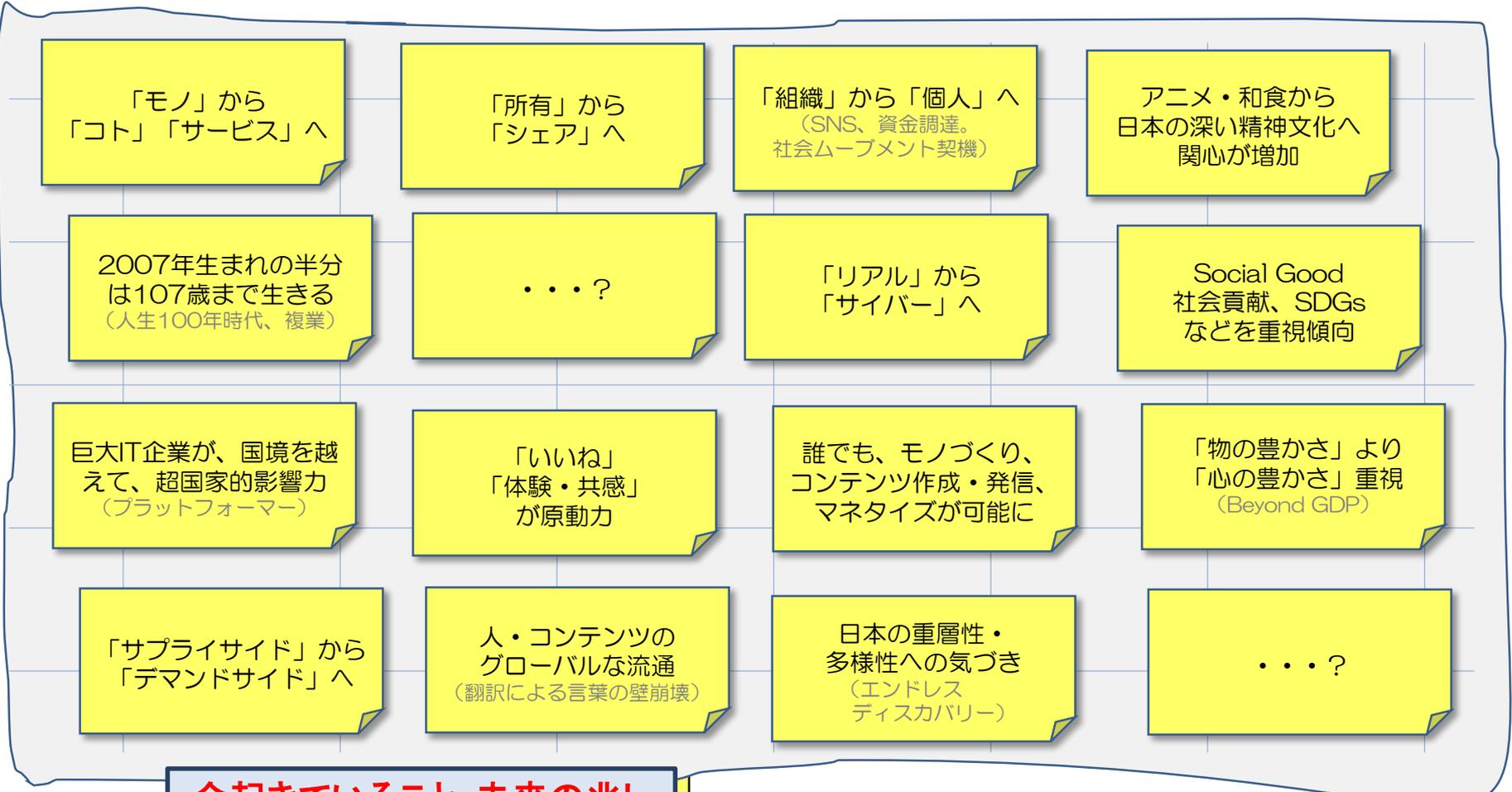
## 3. 将来、価値を生むためには？

- 将来において、価値(イノベーション)は何かからどのように生まれるようになるのか？
- 価値(イノベーション)を生むための知的財産システムのグランドデザインはどのようなものか



# 第1回会合(2017年12月26日)

## テーマ1:「現在」から予測される「未来」



今起きていること・未来の兆し

将来の社会像は？



2015

現在

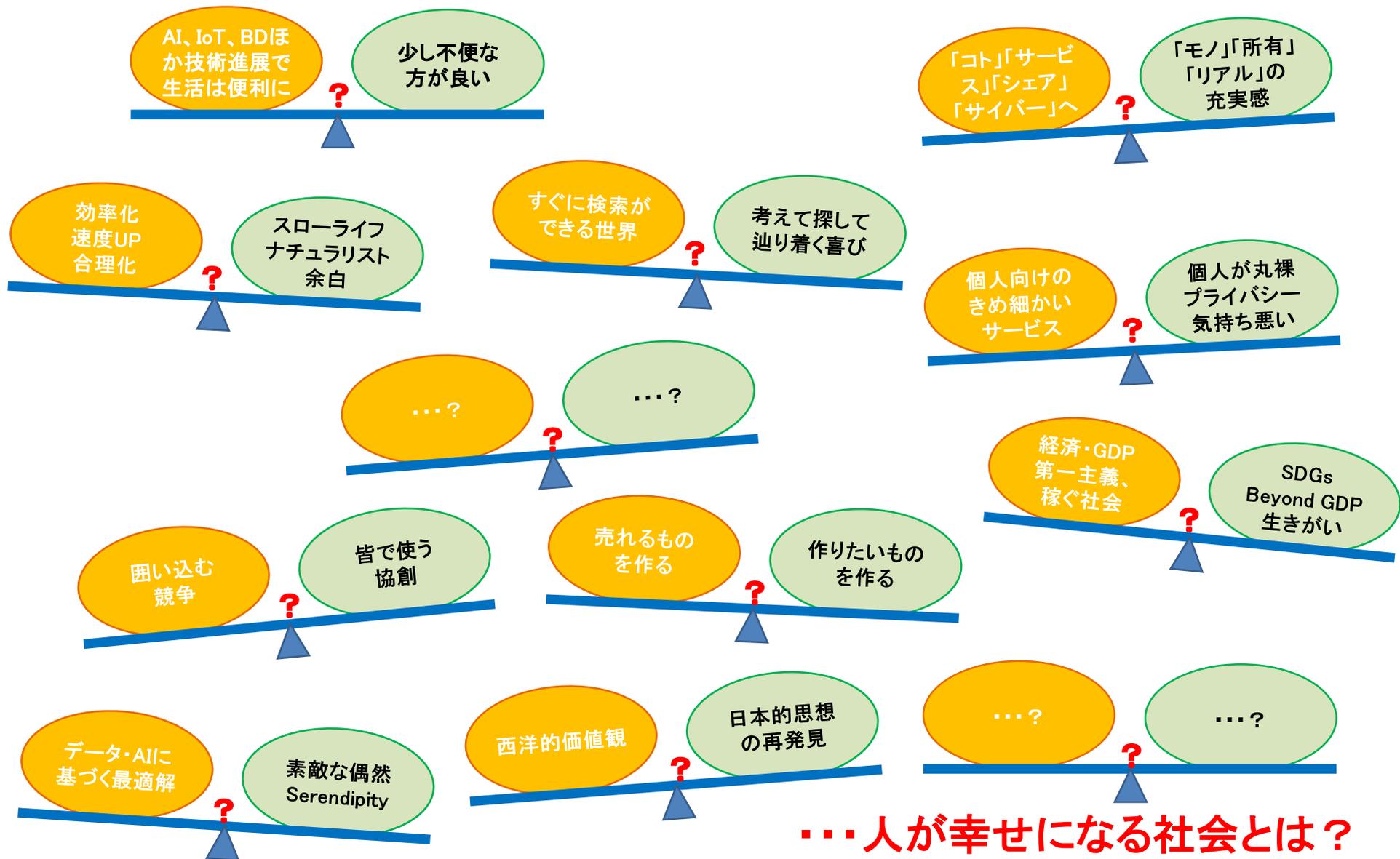
2020

2025

ターゲット未来

2030

## テーマ2: 予測した「未来」は人に幸せをもたらすか？



...人が幸せになる社会とは？

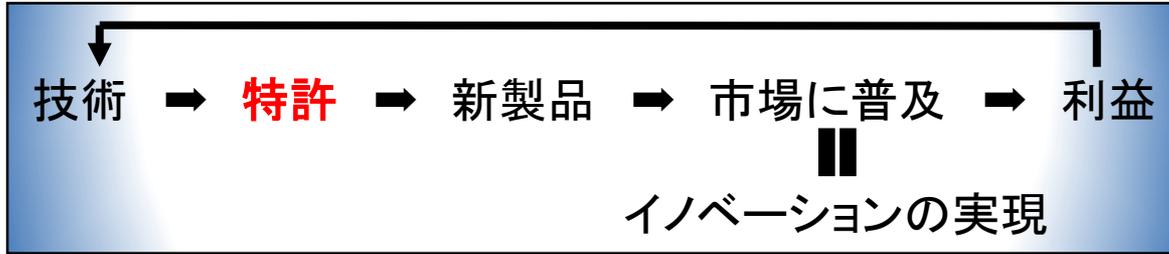
# イノベーションの変質

参考

## 20世紀 = D > S の時代

S リードのリアモデル = 核となる IP を抑えて → 市場の獲得 維持

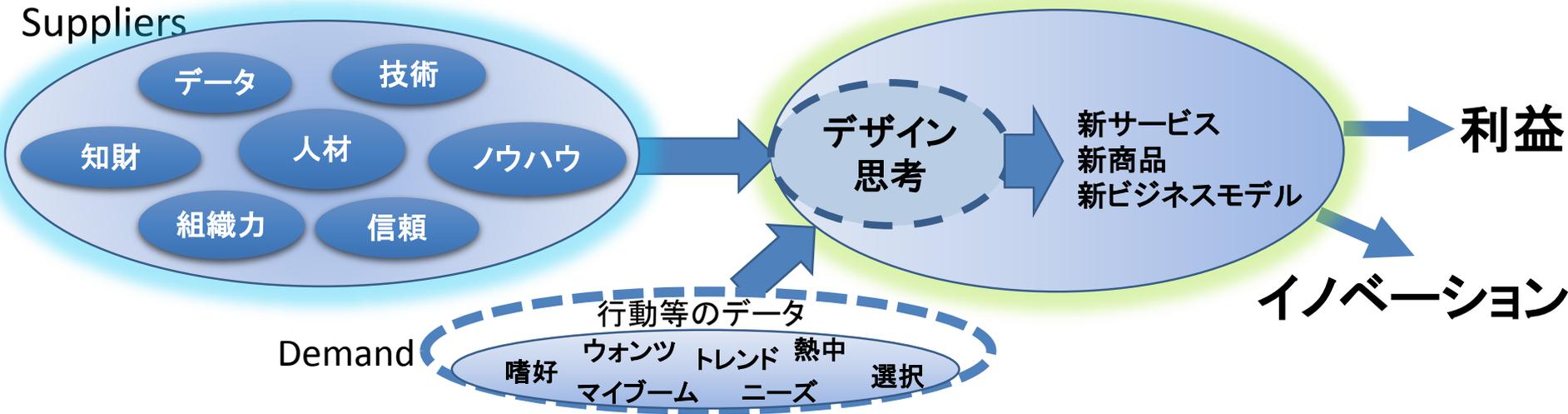
- 継続的利益
- 技術に再投資



**プロパテント戦略**

## 21世紀 = D < S の時代

D リードの市場 = 新技術・新製品でも選ばないと売れない + 複雑系



- ・ Dを理解したビジネスのデザイン
  - ・ 必要な資産の選択 組合せ
- がイノベーションの鍵

**デザイン思考 & プロイノベーション戦略**

# イノベーションの促進に向けた知財システム

参考

## モノからサービスへ

モノ単体ではなく、システムとしての価値が大きくなる



例: Apple  
iTunesや広範なアプリ群が大きな価値を創出

## 新たにつなぐ

供給者と消費者を新たにつなぐことで価値を生み出す

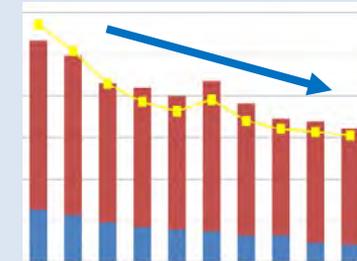


例: Uber  
利用されていなかった資源(車)活用

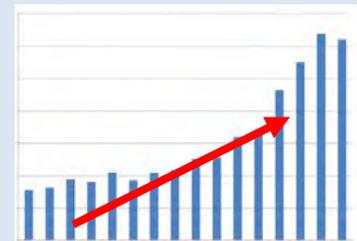
## モノよりコト・共感

多様な価値観や共感が新たな価値を生む

CD(モノ) 売上減少



コンサート(コト) 売上上昇



例: 歌手、アイドル

## デザイン思考&プロイノベーション戦略

### 従来の特許保護モデル

良い技術を開発して  
特許で守り  
良いものを作る



必ずしもビジネスの  
成功にはつながらない...



### 知的財産のあり方も「保護」から「共有」による利活用拡大へ

消費者のニーズを把握するためのプラットフォームとデータを持つことが鍵

モデルイメージ



技術・データ等登録

利用



アクセスデータの  
活用

イノベーション促進